

ファイヤーストーム（ボンファイヤー）の実施の仕方について

①事務室での打ち合わせ

- ・16:30 の事前準備の前に事務室で打ち合わせを行います。物品の個数の確認、貸出希望物品の有無を確認させていただきます。

②16:30～の事前準備

- ・16:30 になりましたら引率の先生と準備担当の係児童・生徒さんは事務室の方に集合してください。交流の家の職員と共に第1営火場の方に移動します。

☆営火場で確認する物品

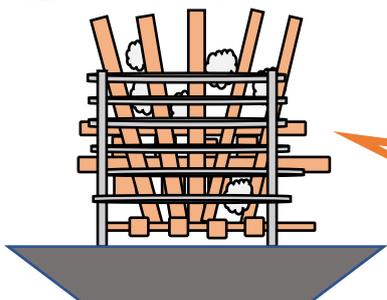
- ・薪10束
- ・灯油2L
- ・焚火台
- ・円筒状の骨組み
- ・トーチ（必要本数）
- ・文化焼き付け（必要個数：1人分2個）
- ・ペンチ
- ・手袋
- ・ざる

1 薪・焚火台を組み立てる作業

- ・営火場にあるリアカーを使って薪10束を運び、営火場の中央まで持ってきます。



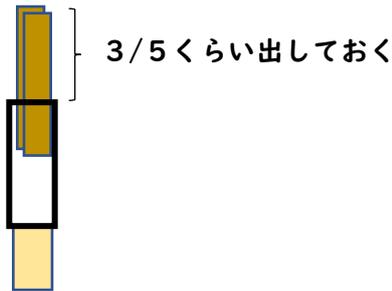
- ・中央に焚火台を置き、その上に円筒状の骨組みを設置します。
- ・設置された焚火台に薪1～2束使用して井桁を作っていきます。



薪と新聞を縦に差し込んでいます。

- ・井桁を作る際は、真ん中に穴を作り、その穴の中に薪と新聞を縦に差し込みます。
- ・残った薪は中央周りに置いておき、ファイヤーストームが進行している時、少しずつ補充していきます。

2 トーチの準備



- ・トーチ1本につき、文化焚き付け2個を使います。
- ・2個の文化焚き付けを合わせて、トーチの中に入れていきます。
- ・カンの入れ方の向きを間違えると、文化焚き付けが折れてしまうのでゆっくり少しずつ入れてください。
- ・文化焚き付けは3/5程頭が出るようにしてください。

- ・出来上がったトーチはパール缶に入れておいてもOKです。

3 灯油を薪にかける※開始までのところで

団体の方に絶対に忘れないでほしいこと

点火時と消火確認時には無線連絡をしてください！

(これを受け宿直者が大田市消防三瓶出張所へ連絡しています)

☆片付けについて

- (1) 水入りドラム缶でトーチの消火をします。
- (2) ペンチで文化焚き付けを外し、ザルに入れます。
- (3) ザルごと再度ドラム缶につけて確実に消火をします。
※文化焚き付けはファイヤーの火で燃やし尽くしてもOKですし、薪の炭を捨てる際に灰捨て場に持っていくでもOKです。
- (4) 焚き火台の薪を燃やしきり、放水して消火する。
第1営火場・第2営火場共に備え付けのホースで消火します。
- (5) 翌朝 炭をパール缶に入れて「灰捨て場」(野外炊飯の時に使うところ)に捨てる。



こちらが灰捨て場になります。

- (6) 灯油缶やペンチ、手袋と事務室からの貸し出し物品は夜のうちに事務室に返却してください。

☆上手なファイヤーストームをする上でのポイント

- (1) 灯油をバケツに少し入れて新聞紙をこれに浸してから井桁に入れる。
- (2) 灯油は全てを薪にかけるのではなく、最後に薪を炭にする時のために少しとっておくとよい。
- (3) 使用済の文化焚き付けは、薪を炭にする時に一緒に燃やすとよい!
- (4) 分火の時の注意点
 - ①受ける人が風下にならない
 - ②受ける時は諸手でトーチを持ち正面に突き出す

☆第2営火場からトーチを持ってくる時

- ・第1営火場のトーチだけでは足りず、第2営火場のトーチを持ってこなければならぬことがあります。
- ・第2営火場からトーチを持ってきた際は翌朝までのところでトーチを第2営火場に返してください。



- こちらの倉庫にトーチが入っています。
- ・突っかえ棒を取ると、倉庫の中に入れます。
 - ・必要本数を運んでください。